

パネルディスカッション1

ICTを活用したことばの教育—子どもへの日本語・教科学習支援における実践的展開から

教科と日本語の統合学習におけるICTの活用

—「算数科」の課題場面の提示において—

衛藤 景太（板橋区立板橋第八小学校）

1. 指導の状況

本校は区内にある日本語学級設置小学校3校のうちの1校であり、自校通級の他、近隣の小学校から児童が通級しています。児童一人当たり週2時間取り出しの個別指導を基本としており、内容は児童の実態に合わせ、サバイバル日本語・日本語基礎・技能別日本語・教科と日本語の統合学習・教科の補習を組み合わせています。

また、本区では児童に一人一台Chromebook端末を貸与しています。日本語学級では、①日付の読み方や物の数え方などのスライドショーを児童が家で繰り返し見る、②調べ学習や発表資料をまとめるといった場面で活用しています。

2. 授業の概略（JSL算数科5年「単位量あたりの大きさ」）

2.1 対象児童

児童は本校に在籍し、週2時間取り出しで日本語指導を受けています。本校に転入する前に他区の日本語指導を受けており、助詞や計算などの学習経験はありました。一方、比較表現が未習であることや、かけ算や割り算の考え方は学年を遡って学習する必要があったことから、特に本単元では文章の正確なイメージをもつことに支援が必要だと考えました。

2.2 目標

①算数科の目標

混み具合などの比べ方を考え、単位量あたりの大きさの意味や表し方を理解し、それをを用いることができる。

②日本語の目標

- ・比較の表現「どちらのほうが～」を理解し、問題文で問われていることが分かる。
- ・自分の考えを「まず・つぎに・だから」などを使って説明することができる。
- ・比較「～のほうが・・・です。」を使った表現を使うことができる。

2.3 本時の流れ

表1 本時の学習活動

学習活動	支援
1 前時の学習を思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をまとめた図や資料（数直線）を掲示する。 ・視覚資料でイメージをもたせる。問題文をリライトする。 ・数直線や式で説明できることを押さえる。 ・問題①は穴埋めの形式、問題②は全文を書く形式にする。
2 めあてを確認する。	
めあて 1あたりの 大きさを くらべよう。	
3 ワークシートの問題①を読み、内容を理解する。	
4 自分の考えを式や図で表現し、答えを求める。	
5 考えをワークシートに書き、説明する。	
6 問題②で上記3～5を行う。	
7 まとめと振り返りをする。	

2.4 支援の工夫

- ・授業の明確なイメージを持たせるために、本時の学習の流れを掲示する。
- ・問題文の理解を促すために、映像などの資料を提示する。
- ・自分の考えは、式や図を介して口頭でやり取りをした後に書くという流れにする。
- ・前時までに学習したことを利用できるようにするために、前時までの学習のまとめを掲示する。
- ・考えたことを説明しやすくするために、ワークシートの説明を書く欄は、穴埋めから全文書くものとなるように段階を設ける。
- ・単元を通して必要な形容詞「広い・狭い」「高い・安い」「多い・少ない」などを事前に学習する。

3. ICT を活用した効果

本時で ICT を活用したのは、問題①と②の課題の提示場面です。問題文を読む前に、視覚資料を通して「道のり」や「40リットルのガソリンで760km走る」などの言葉や表現、「比べる」ことを提示しました。そうすることで、問題文の意味を全体として理解させることが主な目的でした。資料の特徴としては、パワーポイントの図形を動かす機能を使い、絵と動画の中間のようなものを作成しました。

活用した実感として、パワーポイントは児童の反応に合わせて絵を動かすことができることに利点があると考えられました。「ガソリン」や「車に入れます」などの言葉の意味を確認しながら進めることができたり、理解している個所では速く動かしたりするなど、柔軟な資料提示が可能となりました。このような視覚資料により、児童は文章の内容を理解し、「2つのものを比べる」という課題をつかみ、自力解決に円滑に進めたと考えられます。

4. おわりに

上記の内容から分かるように、今回の事例は ICT の活用を前面に出したのではなく、「課題をつかむ」という場面のみで ICT を使用しました。また、用いた機材やアプリケーションも「GIGA スクール構想」の中で導入された新しいものではなく、パワーポイントという従来からあるものです。このように、身近にある物を授業の一場面ですら使った事例でした。

しかし、自らの実践を振り返る中で「絵と動画の中間」という資料がもつ特性と日本語指導の関係を知ることができました。今回、このような機会を与えて頂いたことに感謝いたします。また、今後は表現の場面で ICT を活用するなど、様々な場面での ICT の活用に関する実践を共有させて頂きたいと思います。

【参考文献】

- 齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子編著（2015）『外国人児童生徒の学びを創る授業実践』くろしお出版
- 文部科学省（2003）『学校教育における JSL カリキュラムの開発について（最終報告）小学校編』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm